

2022年度 事業計画

社会福祉法人 札幌この実会

2022年度 事業計画概要

社会福祉法人 札幌この実会

2022年に入り、新型コロナウイルス感染症はオミクロン株による第6波が急拡大し、コロナ禍3年目となる今年度もなお収束の見通しが立たない状況にありますが、新たな対策の情報を得ながら感染予防・衛生管理に努めてまいります。

懸案の将来展望については、引き続き「みらい会議」で検討を進めていきます。今年度は、昨年からの検討状況を整理し直し、改めて「一人ひとりの幸せを願い、ライフステージに応じた適切な支援に取り組む」ことを目標に掲げ、(Ⅰ)利用者の幸せを目指した支援のあり方の再検討 (Ⅱ)利用者家族との関係性を深めるための試み (Ⅲ)職員の資質向上を図り、信頼される職員集団を目指す (Ⅳ)外部に開かれた運営を目指す (Ⅴ)健全な運営基盤の強化策を検討する、以上を「取り組みの5つの柱」としてその具体策に取り組むこととします。

1. 理事会・評議員会の開催

理事:6人 監事:2人 評議員:7人

開催月	機 関	主な議案等
5月	理事会	2021年度事業報告及び決算の承認
		定時評議員会の招集
6月	定時評議員会	2021年度事業報告 2021年度決算の承認
9月	理事会	
12月	理事会	2022年度補正予算の同意 評議員会の招集
	評議員会	2022年度補正予算の承認
3月	理事会	2023年度事業計画及び収支予算の同意
	評議員会	評議員会の招集
	評議員会	2023年度事業計画及び収支予算の承認

2. 監事監査について

各理事会前に監事が業務監査及び会計監査を行います。

3. 事業運営について

2022年度の運営事業は次のとおりです。

この実サポートステーション

■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

(定員) 40 人 (年間利用者延べ人数見込) 約 10,300 人

(体制) 福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

【基本方針】

コロナ以降の生活環境に適応した事業所運営を確立させます。職員編成の変化(若年層や契約、パート職員の割合の増加)や保護者の高齢化の進行などの諸要素を踏まえて、従来の型に囚われることなく、事業内容を一部見直して適正化を図ります。福祉サービスの基本に立ち返って、社会の中で事業所や職員に求められる責務や倫理について共有してもらいます。

【重点目標】

- 制度に則った適正な業務運営の保持。提供するサービスの質の向上。
- 利用者、保護者および現業職員に対する親切、丁寧な説明の励行。

【個別支援計画】

- ・「利用者への共感的理解」を前提とした支援のあり方を職員に共有してもらいます。
- ・支援会議などの支援方針の決定プロセスを重視して、その質の向上を図ります。

【日中活動の概要】

はた・ら〜く

様々な活動(生産活動、創作活動、レクリエーション)を通じて、利用者の生活リズムの確立や健康維持、情緒の安定を図っていきます。発展的には活動を通じた利用者の生きがいづくりや自己効力感の向上を目指していきます。

盤溪・森林農場

盤溪の自然豊かな環境の下で、利用者が伸び伸びと身体を動かし、それぞれのペースで活動に取り組むことで、心身の状態を良好に維持できるよう支援していきます。

【余暇活動および乗馬活動】

通常の日課に加えて、定期的に楽しみのある余暇的な活動を提供して、日中活動の充実を図っていきます。

【行事】

過去2年を踏まえて確実に実施可能なものだけを予定に立てていきます。行事の立案や実施といった実務を通して若年層の職員へ教育的効果を及ぼしていくことも目的とします。

【保護者との連携】

通所とグループホームを分け隔てることなく等しく親切、丁寧な対応をしていきます。事業所の適正な運営上要請される事柄は踏まえ、できる限り保護者の意向や本人への思いを尊重していきます。定期的に保護者会と個別懇談を実施して、直接事業所の方針や個別支援計画などについて説明したり、保護者からの聞き取りをする機会を確保します。

■短期入所事業 りらく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数見込)約800人

(体制)栄養士配置 食事提供体制

単独型短期入所棟として、主に通所利用者の生活訓練や、家族の休息等のために宿泊の受け入れをしています。前年度末のアンケートに基づいて、年間を通して利用人数が偏らないように構成していきます。

この実支援センター

■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数見込)約9,600人

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

生活介護事業所「おりーぶ」では、高齢化が進む中、作業や余暇等の活動を通して体力の維持や健康の増進につながるサービスを提供していきます。

生産活動にも力を入れる一方で、新たに導入したボッチャや握力計などを活用して、たのしみながら健康維持に力を入れていきます。

サテライト2・6での従たる事業所では、企業側の都合により箸の下請け作業が終了しております。新たな下請け作業を探しながら、代わりにクラフトバンドのかご作りやオーブン粘土を活用した小物作りを取り入れる事としております。活動を通して、自分が働いている意欲、やりがいを高める支援をしていきます。また、自立課題や創作活動にも力を入れ新しいものを取り入れて行きます。

入浴支援では個々の状況をアセスメントしていき、アセスメント状況を見てひとりで洗髪や洗体など、出来ることがひとつでも増えるよう支援していきます。

新型コロナウイルス感染症が、まだまだ収束する兆しも見えない状況下にあります。3回目ワクチン接種を行い、事業所として利用者、ご家族の「安心・安全」を考え、引き続き感染予防対策の取り組みを行っていきます。

■就労継続支援B型事業 この実支援センター うえるなつつ

(定員)15人 (年間利用者延べ人数見込)約3,400人

(体制等)福祉専門職員配置等 施設外就労 施設外支援

就労継続支援B型「うえるなつつ」では、コロナ禍で制約された暮らしの中、ご家庭が抱えている不安や困り事の聞き取り、新しい生活様式での一人ひとりのニーズに沿ったこれからの活動に重点を置いて保護者の方と情報を共有しご本人が安心してうえるなつつの活動に参加できるようにします。

新規作業開始に伴って企業や他機関とのつながりを大切にし、新しい作業に挑戦する機会を設け意欲的に作業に取り組んでいただけるよう支援していきます。また、就労に関わる支援の強化、関係機関との連携を図れるよう努めてまいります。

コロナ禍で実習や見学の申し込みが少なくなっていますが、感染対策についてご理解をいただきながら高等支援学校や相談支援事業所からの見学や実習を受け入れて参りました。その成果もあり、令和4年1月に1名、3月から1名の利用開始に繋がっており、14名の利用となっています。今後も15名の利用者確保を目標とし、各方面(ハローワークや相談支援事業所、高等支援学校等)にうえるなつつの活動を伝えるなど宣伝活動を行い、新規利用者確保に努めます。

コミュニティライフこの実

「新型コロナウイルス感染症」については、利用者の3回目のワクチン接種は終了しましたが、引き続き「手洗い・うがいの徹底」「外出の制限」「マスクの着用」等の新しい生活様式で感染予防に努め、「新型コロナウイルス感染症」を施設から出さないことを念頭に置き活動を組み立てていきます。

その中で、この実会の理念である

『誰もが地域社会の中で自立した人間(ひと)として暮らすこと』

『一人一人が大切にされ、その長い生涯が支えられること』

を具現化するためにどのような支援が必要か、またどのような体制を組み立てるのかを常に検討しながら、安心安全で楽しく人らしい生活をつくれます。

令和元年12月にコミュニティライフこの実として新しい体制でスタートしましたが、3年目を迎えた令和4年度は、高齢化を含めた課題を整理して新たな支援の形を作ります。

■共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)48人 (共同生活住居)9ヵ所

(年間利用者延べ人数見込)約16,800人

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援等体制

重度障害者支援職員配置 医療連携体制

今年度は、就労している方から、高齢の方、強度行動障害などがあり手厚い支援が必要な方といった様々なニーズに応えるため、課題を整理して住む場所や職員の体制なども見直し、新しい体制を組み立て、利用者ひとりひとりに寄り添った支援を行います。

また、外出が規制される中、各ホームで季節に応じたイベントを行うなど楽しみの活動を取り入れ、より家庭的な雰囲気の中で暮らしていただけるよう工夫します。

外出や帰省については、新しい生活様式としての「新北海道スタイル」に準じながらその都度、出来ることを行っています。

■共同生活援助事業 この実みなぼつけ

(定員)19人 (共同生活住居)2ヵ所

(年間利用者延べ人数見込)約6,700人

(体制)日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制

重度障害者支援職員配置

■短期入所事業 この実みなぼつけ

(定員)1人 (年間利用者延べ人数見込)0人

(体制)常勤看護職員等配置 栄養士配置 食事提供体制

区分の高い利用者や高齢者が多く、「安心・安全」に暮らし、活動していくためにも職員間での情報の共有や認識の統一が重要でありそのために聞き取りや報告などをよりこまめに行っています。希望を伝えることが難しい方にも丁寧に対応し、できるだけ本人は楽しめるよう余暇活動等を充実させます。また晩酌会に季節的な要素を盛り込み、楽しめる活動を定期的に行っています。

利用者の健康状態や加齢に伴う変化に対し速やかに適切な対応を取れるような体制をつくります。また訪問リハビリなども活用し身体機能の維持を図ります。

相談室みすくうえる

■特定相談支援事業 相談室みすくうえる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)

(契約者数)70人 (更新見込)51人 (モニタリング見込)128人

■一般相談支援事業 相談室みすくうえる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)

平成29年1月、社会福祉法人札幌この実会の地域貢献自主事業として福祉総合相談「みすく・うえる」を開設しました。2年間の自主事業としての実践の中から、平成3

1年1月までの相談数は28件程あり、同業者からも一定の評価を得ることが出来たことから更なる今後の展開を考える必要性が出てきた為、平31年4月に指定特定相談支援事業所(特定相談支援事業・一般相談支援事業)を開設し、4年目を迎えます。

昨年度、藻岩この実会(第2この実寮)から40名の利用者の計画相談を移管し、現在、契約件数は全部で70名(札幌この実会利用者27名 藻岩この実会40名 札幌この実会以外3名)となっています。南区の2ヶ所あるうちの1ヶ所の委託相談室が閉じる事となり、もう1か所の委託相談室である、ほっと相談センターに負担がかかっているようで、もう何名か移管できないか打診がきています。出来る限りは受け入れられるよう協力体制をとっていきたいと考えています。

コロナウイルスの状況を見ながらではありますが、事業所や関係機関への訪問を行い、常日頃から情報交換をするなど連携をとり、円滑な関係作りを図れるよう努めていきたいと考えています。

4. 地域における公益的な取り組みについて

2022年度もコロナ禍で取り組みは限定的となりますが、地域のなかで互いに助け合える関係づくりに努めていきます。

■外作業班による地域貢献活動

利用者の日中活動の一環として、地域住民の日常生活の困りごとのお手伝いをしています。

■福祉除雪

地域の支え合いとして行われている福祉除雪事業の地域協力員として除雪を行います。

■福祉総合相談

「相談室みすくうえる」において、障がいのある方、高齢の方、そのご家族の困りごとなどを一緒に考え、地域における公益的な活動を目指します。

■清掃活動

公園清掃、並びに地域やバス停のゴミ拾いを行います。

2022年度 当初予算について

2022年度当初予算の概要は次のとおりです。()…対2021年度第一次補正予算

《事業所合計》 ※法人本部を除く

事業活動収入 約 470 百万円弱 (約 4 百万円強増△) …別紙参照

人件費関係の支出 約 343 百万円弱 (約 19 百万円強増△)

○人件費率 約 73%

○人件費積立資産取崩 約 9 百万円弱 (約 9 百万円弱増△)

経常的なその他の支出 約 135 百万円弱 (約 3 百万円強増△)

《法人合計》

特別な支出に対する積立資産での対応 4 百万円

○であいの家解体費用 4 百万円 (本部)

(法人計)	支払資金残高	約 166 百万円強
	積立資産残高	約 197 百万円強

※積立資産の収支 (退職給付引当資産を除く)

(単位:千円)

		本部	この実サポート ステーション	この実 支援センター	コミュニティ ライフこの実	合計
取崩(A)	積立資産取崩収入	12,600	0	0	0	12,600
積立(B)	積立資産支出	8,429	0	0	0	8,429
(B)-(A)		▲ 4,171	0	0	0	▲ 4,171

2022年度の事業活動収入について

事業活動収入計	この実サポートステーション	この実支援センター	コミュニティライフこの実	相談室みすくうえる	合 計
2021年度	108,415,000	115,853,300	239,093,140	2,452,030	465,813,470
2022年度	107,178,000	114,453,200	245,887,100	2,378,000	469,896,300
差 異	▲ 1,237,000	▲ 1,400,100	6,793,960	▲ 74,030	4,082,830
主な要因 (+)…プラス要因 (-)…マイナス要因	■すてっぷ(生活介護) 自立支援給付費収入…マイナス約270万円 (-)利用者延人数減 (-)重度障害者支援加算・開始180日 ⇒該当なし (+)臨時特例交付金に続く加算 その他の事業収入…プラス約50万円 (+)臨時特例交付金 ■りらく(短期入所) 自立支援給付費収入…プラス約80万円 (+)利用者延人数増 その他の事業収入…プラス約10万円 (+)臨時特例交付金	■おりーぶ(生活介護) 自立支援給付費収入…マイナス約290万円 (-)常勤看護職員等配置加算(Ⅰ) ⇒非該当に (-)重度障害者支援加算・開始180日 ⇒該当なし その他の事業収入…プラス約50万円 (+)臨時特例交付金 ■うえるなっつ(就労継続B型) 就労支援事業収入…プラス約60万円 自立支援給付費収入…プラス約30万円 (+)利用者延人数増 (-)就労移行支援体制加算 ⇒非該当に (-)送迎加算 ⇒該当なし その他の事業収入…プラス約10万円 (+)臨時特例交付金	■らいふネット(共同生活援助) 自立支援給付費収入、補足給付費収入、 特定費用収入 合計…プラス約310万円 (-)利用者延人数減 (+)重度障害者支援加算(Ⅱ)・延人数増 (-)医療連携体制加算・対象者減 ※看護師2人⇒利用者40人 (+)夜間支援加算(Ⅱ)・延人数増 (-)過年度分自立支援給付費収入 ⇒該当なし その他の事業収入…プラス約140万円 (+)臨時特例交付金 ■みなぼっけ(共同生活援助+短期入所) 自立支援給付費収入…プラス約160万円 (+)重度障害者支援加算(Ⅱ)・延人数増 (-)過年度分自立支援給付費収入 ⇒該当なし その他の事業収入…プラス約90万円 (+)臨時特例交付金	■相談室みすくうえる(計画相談支援) 自立支援給付費収入…マイナス約7万円	

注) 2021年度…12月・第一次補正予算 2022年度…当初予算